

愛媛大学図書館学術講演会

オープンサイエンスと大学図書館 ー京都大学の取り組みー

令和元（2019）年12月6日（金） 14:30-16:00

京都大学附属図書館学術支援課 山中節子

愛媛大学図書館4階3閲覧室（視聴覚室）

本日の話

オープンサイエンスに関する京都大学の取り組み (図書館を中心に)

1. 研究データマネジメント (Research Data Management=RDM)
2. RDM以外の取り組み

目次

- ・ 1. オープンサイエンスと研究データ基盤整備
- ・ 2. 研究データマネジメント (RDM)をめぐる状況 (概要)
- ・ 3. 京都大学の取り組み
- ・ 4. 図書館機構の取り組み
- ・ 5. オープンサイエンスに寄与する様々な取り組み

1. オープンサイエンスと 研究データ基盤整備

オープンサイエンスとは？

「知識をオープンにし、研究の加速化や
新たな知識の創造などを促す」動き

「研究データ基盤整備と国際展開ワーキング・グループ報告書 ―研究データ基盤整備と国際展開に関する戦略―」より（内閣府研究データ基盤整備と国際展開ワーキング・グループ 令和元年10月）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kokusaiopen/index.html>

オープンサイエンスとは？②

- ・ 情報通信技術の進展により可能となる新たな学術研究活動形態の追求
- ・ 学術のオープン性を単に求める用語ではなく、デジタル時代における学術情報の共有可能性の拡大や、世界のあらゆる人々とのコミュニケーションや協働が飛躍的に容易になったこと、さらに「社会に開かれた学術」への要求の高まりを念頭に、「世界のあらゆるステークホルダーとダイナミックに結びついて進める学術」という意味も込められた用語

「学術機関における研究データ管理に関する提言」（2019年,一般社団法人大学 ICT 推進協議会）

オープンアクセスからオープンサイエンスへ

**学術研究成果や研究資料の公開
オープンアクセス**



**「研究データ」や「研究資源」のオープン化と
その共有による新たなサイエンスの創造**

学術情報のオープン化の推進について (審議まとめ)

- 研究成果のオープン化は、研究成果の相互利用を促進し、知の創出に新たな道を開くことが期待される。
- とりわけ研究データ等をオープン化しデータ駆動型の研究を推進することで、イノベーションの創出につなげることを目指した新たな科学の進め方
- 論文及び 論文のエビデンスとしての研究データの公開

平成28年2月 文部科学省科学技術・学術審議会 学術分科会学術情報委員会
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/04/08/1368804_1_1_1.pdf

Open---Share---Close

政府の提言や世界の情勢では：

- ・ 公的資金による研究の公開が求められる一方で、すべてオープンにせよという話ではない。
- ・ 研究成果や研究資料の性質、研究段階に応じて、非公開・共有・公開を判断しつつ、各研究者や研究プロジェクト等が管理する

2. 研究データマネジメント (RDM)をめぐる状況（概要）

海外

出版社

RDA
FORCE11
CoreTrustSeal
re3Data.org

大学

図書館、RDM支
援組織

内閣府、文科省

(WG, 提言等)

助成機関

(DMP, オープン化)

NII

(システム構築)

連携組織

(JPCOAR, AXIES)

国研

(研究データ、先進
事例)

大学

(研究教育、資料、研究
データ、保存公開施設)

社会連携

地域連携

海外の活動

- 出版社
 - データの管理・公開等研究支援ツール、研究成果分析ツールの提供
 - Mendeley Data (Elsevier社)
 - SpringerNature figshareと提携 <https://springernature.figshare.com/>
- 研究データ管理に関する協働検討組織
 - RDA
 - FORCE11
 - CoreTrustSeal 等
- 大学 欧米を中心に、研究データ支援体制を作り運用
 - DCC (Digital Curation Centre) 等

国内提言等

年 月	事 項
2013年6月	G8科学大臣会合における研究データのオープン化を確約する共同声明
2015年3月	国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会報告書（内閣府）
2016年1月	第5期科学技術基本計画（内閣府）
2016年2月	学術情報のオープン化の推進について（審議まとめ）（文部科学省）
2016年7月	オープンイノベーションに資するオープンサイエンスのあり方に関する提言（日本学術会議）
2017年6月	科学技術イノベーション総合戦略2017（内閣府）
2018年6月	統合イノベーション戦略（内閣府）
2018年6月	国立研究開発法人におけるデータポリシー策定のためのガイドライン（内閣府）
2019年10月	研究データ基盤整備と国際展開ワーキング・グループ報告書ー研究データ基盤整備と国際展開に関する戦略ー（内閣府）

助成機関

- ・ オープンアクセスの推奨
- ・ データマネージメントプラン（研究データ計画書）提出義務化の動き
 - ・ AMED（日本医療研究開発機構）、JST（科学技術振興機構）、経済産業省 産業技術環境局 等
- ・ 国内の研究助成機関の動向（「RDUF小委員会 データ管理計画 (Data Management Plan: DMP)」 2019年2月18日 RDUF2019総会）
 - ・ https://japanlinkcenter.org/rduf/doc/190218_rduf_dmp.pdf
- ・ データ・マネジメント・プラン（DMP）について（研究データ基盤整備と国際展開ワーキング・グループ報告書図表集2）
 - ・ <https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kokusaiopen/zuhyou2.pdf>

日本医療研究開発機構(AMED)

- データマネジメントプランの提出について
 - <https://www.amed.go.jp/content/000030140.pdf>
 - 平成30年 5 月 1 日以降にAMEDが新規公募する事業
 - 記載事項
 - 事業年度
 - 事業名
 - 研究開発課題名
 - 研究から産出されるデータ及びデータ群の総称
 - 研究開発データの説明
 - データサイエンティストの所属・氏名等 ※複数名を記載可
 - リポジトリ（保存場所）
 - その他必要事項（各事業の特性等に応じ設定）

新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)

- ・ N E D Oプロジェクトにおけるデータマネジメントに係る基本方針
 - ・ <https://www.nedo.go.jp/content/100875797.pdf>
 - ・ 記載事項
 1. 研究開発データの名称
 2. 研究開発データを取得又は収集した者
 3. 研究開発データの管理者
 4. データの分類（自主管理データと記載）
 5. 研究開発データの説明
 6. 研究開発データの想定利活用用途
 7. 研究開発データの取得又は収集方法
 8. 研究開発データの利活用・提供方針
 9. （他者に提供する場合）円滑な提供に向けた取組（秘匿して自ら利活用する場合）
秘匿期間、秘匿理由
 10. リポジトリ（プロジェクト期間中、終了後）
 11. 想定データ量
 12. 加工方針（ファイル形式、メタデータに関する事項を含む。）
 13. その他（サンプルデータやデータ提供サイトのURL）

全国的な連携組織

- AXIES（大学ICT推進協議会）研究データマネジメント部会
「**学術機関における研究データ管理に関する提言**」
2019年5月11日刊行 <https://axies.jp/ja/qruv9l/7ce3mg>

The screenshot shows the AXIES (University ICT Promotion Association) website. The header includes the AXIES logo and navigation links. The main content area features a news section on the left and a detailed proposal on the right. The proposal is titled '学術機関における研究データ管理に関する提言' (Proposal on Research Data Management in Academic Institutions) and was published on May 11, 2019. It discusses the importance of research data management in the digital age and provides recommendations for academic institutions.

AXIES 大学ICT推進協議会

ログイン

サイトを検索 検索

現在のセクション内のみ

ホーム ニュース イベント 法人基本情報 事業計画・事業報告 会員特典 入会のご案内 運営総会 年次大会 各種刊行物 部会活動

国際連携 情報倫理デジタルビデオ ICT活用調査 基本方針・ポリシー 問い合わせ先

ニュース

【2019年度AXIES年次大会】大会タイムテーブル公開について
2019年11月28日

【2019年度AXIES年次大会】早期申込み締切 (10/31) のご案内
2019年10月28日

AXIESホームページのリニューアルについて
2019年10月03日

もっとニュース...

学術機関における研究データ管理に関する提言

現在位置: ホーム > 各種刊行物 > 学術機関における研究データ管理に関する提言

学術機関における研究データ管理は、情報基盤、図書館、研究推進、研究公正、といった複数部門の連携・協力体制を必要とします。機関内における共通認識醸成に本冊子が役に立てば幸いです。

本提言は、学術機関がデジタル時代において踏まえるべき研究データ管理の理念や考え方の観点を記しています。研究データ管理は機関内の多様なステークホルダーによる連携と協力が必要です。AXIESの主な参加機関である高等教育・学術研究機関における最高情報責任者(CIO)はもちろんのこと、機関の執行部をはじめ様々な部署において、本提言が参照され、機関での研究データ管理体制が速やかに構築されることを望みます。

2019年5月11日刊行
A4判 PDF (1,252KB)
見聞き利 PDF (1,233KB)

この文書は クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。
This document is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License

これからのイベント

アンカンファレンス (OSS Cafe)
2019/12/11のお知らせ
2019年12月11日 14時30分 - 17時30分 九州工業大学サテライト福岡天神

JPCOAR（オープンアクセスリポジトリ推進協会）

JPCOAR = Japan Consortium for Open Access Repositories

- 研究データ作業部会（2019年度）
- RDMトレーニングツール
- 教材「研究データ管理サービスの設計と実践」



JANUL（国立大学図書館協会）

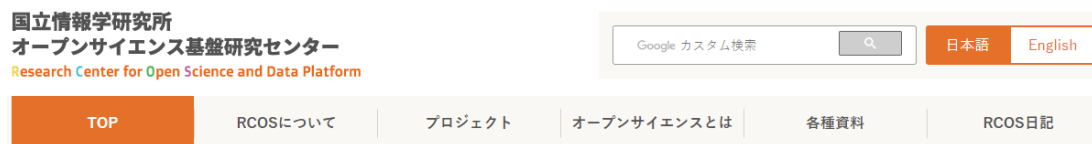
オープンアクセス委員会

- ・ オープンサイエンスに向けて国立大学図書館が担う具体的役割
（2019年4月12日）
- ・ 機関リポジトリの再定義について （2019年8月5日）

- ・ <https://www.janul.jp/ja/projects/oa>

RCOS NIIオープンサイエンス基盤研究センター

RCOS=Research Center for Open Science and Data Platform



Advancing Open Science with Research Data Platforms

NIIオープンサイエンス基盤研究センター（RCOS）は、世界的なオープンサイエンスの気運を受け、そのインフラとなる学術基盤を開発・運営するために、国立情報学研究所（NII）内に設置されました。

学術論文と研究データがアカデミアおよび社会で広く共有され、幅の広い研究活動がオープンに行われることで、研究活動の加速化や、社会と緊密な連携の上に成り立つ問題解決が進み、学術活動が新しい次元（＝オープンサイエンス）に移行することが期待されています。



NEWS

2019.11.11

NEWS

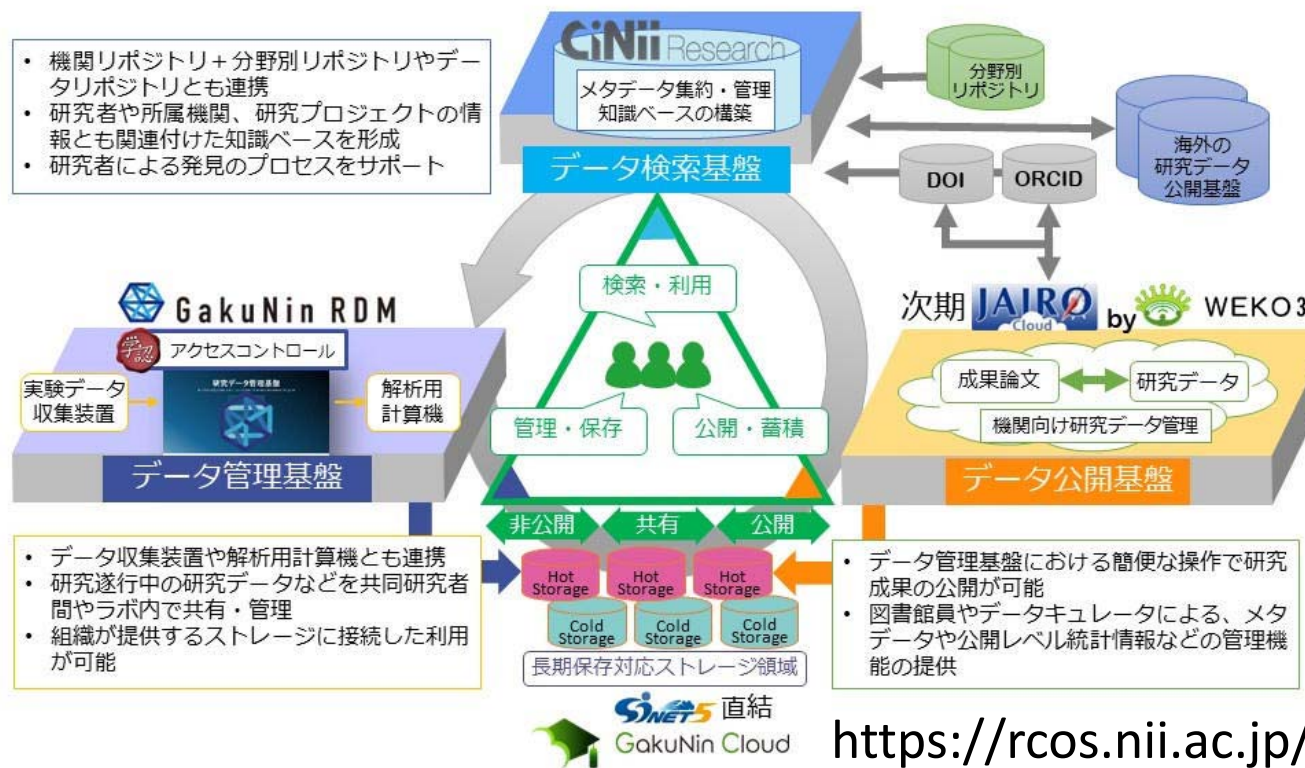
「サイエンスリポート」Webサイトに「ものづくりや社会のGOODに役立てる。」が掲載されました（2019.11.11）

<https://rcos.nii.ac.jp/>

NII Research Data Cloud



RCOSによるサービスの概要



※京都大学では、

- GakuNinRDMの検討を情報環境機構で、
- データ公開基盤の検討を図書館で行い、後述の「アカデミックデータ・イノベーションユニット」で情報共有している。

<https://rcos.nii.ac.jp/service/>

国立研究開発法人のデータポリシー

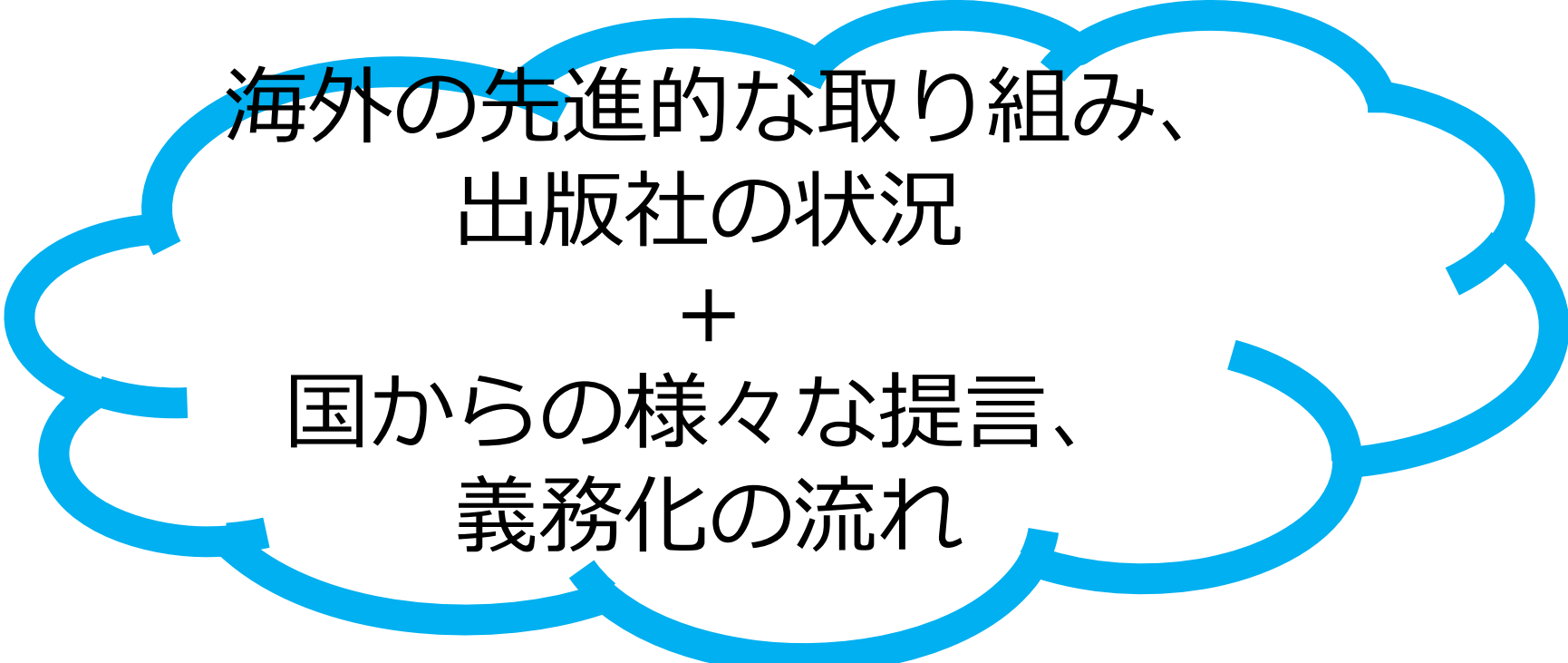
- ・ 海洋研究開発機構 データ・サンプルの取扱いに関する基本方針（データポリシー） 平成19年5月16日
- ・ 国立環境研究所 データの公開に関する基本方針（データポリシー） 平成29年4月1日
- ・ 宇宙科学研究所データポリシー 2018年3月14日
- ・ 物質・材料研究機構研究データポリシー 平成30年8月1日

※2020年度末までにデータポリシーを策定することを求めている（統合イノベーション戦略 2018年6月15日）

参考：データポリシー策定の目的

- ・研究データの管理・利活用についての組織としての方針（データポリシー）の策定は、以上の期待と課題に応えつつ、論文を主体としてきた研究活動に、その基となる知識・情報（データ）の共有による新しい価値を与え、研究自体のあり方に変革を促すものである。

（国立研究開発法人におけるデータポリシー策定のためのガイドライン）



海外の先進的な取り組み、
出版社の状況

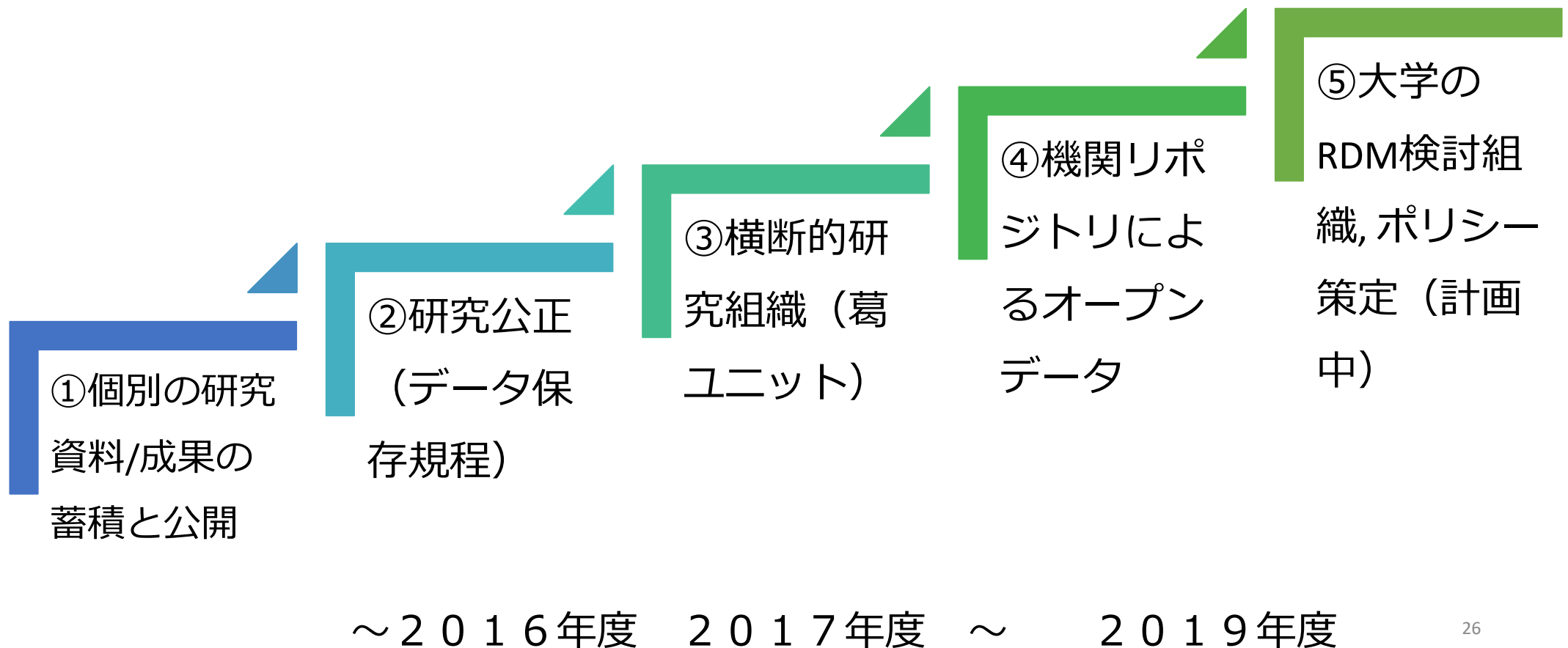
+

国からの様々な提言、
義務化の流れ

- これらの動きに京都大学はどう対応するか？
- 国研等の先進事例があるが、総合大学としてはどう取り組むことができるか？ 試行錯誤しつつ取り組む状況。

3. 京都大学の取り組み

京都大学の取り組み（段階的に発展）



①個別の研究資料／成果の蓄積と公開

1. 各部局、研究機関によるデータベース

- World Data Center for Geomagnetism, Kyoto
<http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/index.html>
- Kyoto Encyclopedia of Genes and Genomes
<https://www.genome.jp/kegg/>

2. 研究資源アーカイブ（総合博物館）や、機関リポジトリKURENAI（図書館機構）

KURENAI :

- 論文のSupple.として、図や動画を登録した実績あり
- 国際認証なし
- JPCOARスキーマ未対応

②研究公正

1. 京都大学における公正な研究活動の推進等に関する規程 第7条第2項研究データの保存、開示等について定める件（平成27年7月30日研究担当理事裁定制定）

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/ethic/research_guide

2. 情報環境機構「データ保存サービス」（平成28年3月試行、平成30年4月開始）

<http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/archive/>

3. 各部局でのデータ保存に係るルール（研究倫理審査も含む）

③横断的研究組織の発足とその活動

学際融合教育研究センター

「アカデミックデータ・イノベーションユニット」

http://www.cpier.kyoto-u.ac.jp/about_trashed/acd/

(活動概要は後述)

アカデミックデータ・イノベーション ユニット

ユニット長：梶田将司（学術情報メディアセンター）

関連部局名

文学研究科，理学研究科，医学研究科，情報学研究科，生存圏研究所，防災研究所，東南アジア地域研究研究所，学術情報メディアセンター，高等教育研究開発推進センター，総合博物館，大学文書館，京都大学研究連携基盤，情報環境機構，図書館機構，学術研究支援室

ユニットの趣旨・概要

本ユニットは，京都大学の研究者の研究活動によって生み出される多様なアカデミックデータを適切に蓄積・共有・公開および長期保管するデータマネジメント環境を調査研究する。これにより，多様な研究領域のアカデミックデータの融合による既存領域でのイノベーションの創出とデータを活用した新たな研究領域の創出を他の大学に先駆けて目指す。

京都大学は，我が国におけるトップレベルの大規模総合研究大学として，多様な多彩な研究分野の研究者を抱えており，研究活動を通じてイノベーションを起こすポテンシャルの高い知的財産としてのデータ（以下「アカデミックデータ」という）が日々生み出されている。しかしながら，これらのアカデミックデータは，各研究者や既存の研究分野内での利用に留まっており，アカデミックデータの分野内での再活用や分野間での融合によるイノベーション創出方策は明らかになっていない。一方，研究公正やオープンサイエンスで求められる研究データの長期保管や公開・共有は，国際的な研究拠点である本学として早急に対応すべき課題でもある。

活動にあたっては，アカデミックデータマネジメント環境に関わるステークホルダーでユニットを構成する。すなわち，(1)利用者としての各研究科・研究所に所属する研究者，(2)全学支援組織として学術研究支援室・図書館機構・総合博物館・大学文書館・高等教育研究開発推進センター等，(3)システム構築・運用組織としての情報環境機構の関係者である。このようなステークホルダーが一同に会することにより，各現場の声にもとづいた理想的なアカデミックデータマネジメント環境をボトムアップで提案することができる。

センター紹介

Guide of Center

- ▶ [関連部局名](#)
- ▶ [ユニットの趣旨・概要](#)
- ▶ [ユニット構成員リスト（2019年11月時点）](#)

④機関リポジトリによるオープンデータ ー論文のエビデンスデータの登録ー

- ・ 2018年度に取り組むことを決定
- ・ 2019年6月 規定改正、受付開始
- ・ データ登録事例 3件（内、1件は論文査読投稿中）
- ・ さらに、RDMの理解を促進するための情報提供（後述）

⑤大学組織 による検討 (2019年度後半)

研究担当理事、図書館担当理事、
部局長（数名）、情報環境機構
長、図書館機構長、総務部長、
企画・情報部長、附属図書館事
務部長、その他若干名

委員会

事務局：企画・情報部

2019.12 部会設置予定

RDM専門部会

事務局：附属図書館

図書館機構長、葛ユニット長、
図書館機構・附属図書館教員、
情報環境機構教員、研究推進部
職員、附属図書館職員、その他

今後設置予定

リサーチデータポリ
シー策定WG

事務局：附属図書館

4. 図書館機構の取り組み

来し方を振り返れば・・・

- ・オープンサイエンス、オープンデータに対する図書館や図書館員への期待に対し、どう取り組むか??

何かやらねば！

しかしどうやって？

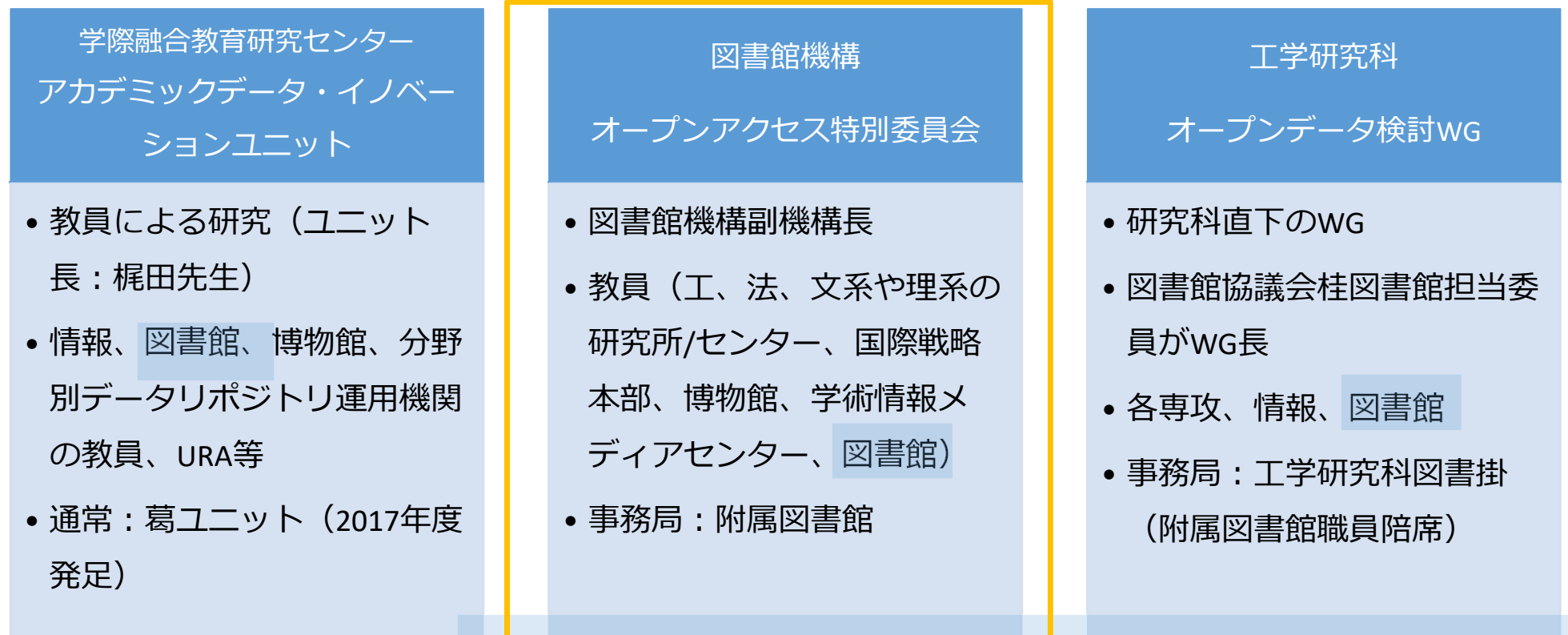
総合大学の図書館
ができること、図
書館員の役割に立
ち返って考える

検討したこと

1. 先進事例の調査（何をしたらよいのか、何ができるのか）
2. 機関リポジトリのJPCOARスキーマ対応とデータリポジトリの検討
3. 情報リテラシー教育の一環としての情報提供
4. 研究中心のキャンパスでの新図書館におけるサービス
5. 外部機関や学内機関との連携、テストや実証実験への積極的な参加

→論文のエビデンスデータの提供開始等の実践につながった

学内のRDM検討体制と図書館 2018年度～2019年度前半



図書館機構オープンアクセス推進プロジェクトチーム

2018年度 組織として実施を決めたこと

（機関リポジトリの学内検討委員会を「オープンアクセス特別委員会」に変更し検討）

- ・ 桂図書館における支援業務の検討をバックアップ
- ・ 論文のエビデンスデータの公開
- ・ 利用者への情報提供
 - ・ データリポジトリ提供開始までの当面の対策を案内
- ・ データリポジトリの検討のため、NII実証実験への参加

2018年度 実施事項（主なもの）

- ・ オープンアクセス推進プロジェクトチーム再編
 - ・ 桂図書館メンバーを加える
- ・ JPCOARオンライン教材「研究データ管理サービスの設計と実践」試用プロジェクト参加
 - ・ 図書館、情報環境機構、企画・情報部、学術支援室教職員20名
- ・ 若手人材海外派遣事業による海外調査（ドイツ・オランダ）
- ・ セミナー・講演会の開催
 - ・ 附属図書館研究開発室セミナー「研究データ管理と大学図書館ー北米の事例を中心にー」（2018/6/11）
 - ・ 図書館機構講演会「オープンサイエンス時代の大学図書館-これから求められる人材とは」（2019/2/13）

参考) 海外調査

- ・ 安原通代, 藤原由華

「ドイツおよびオランダにおける研究データ管理サービスの現状とデジタルアーカイブの活用について : 平成30年度京都大学若手人材海外派遣事業ジョン万プログラム(職員派遣)による海外派遣研修報告書」

派遣先: Technical University of Munich 他 計6機関 (報告書を参照),
期間: 2019年1月21日-2019年2月2日

<http://hdl.handle.net/2433/243323>

2019年度 実施事項（主なもの）

- ・エビデンスデータ登録のための規程改正
- ・エビデンスデータ登録開始
- ・RDMリーフレット作成
- ・学認LMS実証実験への参加
- ・RDM事例形成プロジェクトへの関心表明
- ・データポリシー策定準備

規程改正（詳述）

- ・ リポジトリ運用指針の改定 2019.6.14
第2項（登録範囲）に下記の記述を追加する。

「(4) 各種研究成果物の根拠となる研究データ」

https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/uploads/oa_KURENAI-policy.pdf

(登録範囲)

2. リポジトリに登録・蓄積・保存（以下「登録」という。）する範囲は、本学において作成された次の各号に掲げる研究・教育成果物とする。（文字資料以外の電子的資料（画像・データ集）を含む）

- (1) 学術論文（学術雑誌掲載論文、プレプリント、学会発表資料等）
- (2) 学位論文（博士論文、修士論文）・卒業論文
- (3) 教育資料（講義資料、講演記録、プレゼンテーション資料等）
- (4) 各種研究成果物の根拠となる研究データ
- (5) 部局等が作成した紀要・研究記録等
- (6) 学内に基盤をもつ学会・研究会が作成した紀要・研究会誌・研究記録等
- (7) その他、京都大学図書館協議会オープンアクセス特別委員会（以下「特別委員会」という。）が適当と認めたもの

エビデンスデータの登録例

- Pigeons integrate visual motion signals differently than humans
<http://hdl.handle.net/2433/242241>
- 著者 : Hataji, Yuya (ほか)
- 誌名 (関連リンク) : Yuya Hataji, Hika Kuroshima and Kazuo Fujita (2019). Pigeons integrate visual motion signals differently than humans. Scientific Reports, 9:13411. <https://doi.org/10.1038/s41598-019-49839-x>
- データ 10.48 MB, 1.63 MB, 10.38 MB, 2.07 MB(CSV), 5.04 kB(text)

エビデンスデータの登録例（続き）



SCIENTIFIC REPORTS

Article | [Open Access](#) | Published: 16 September 2019

Pigeons integrate visual motion signals differently than humans

Yuya Hataji , Hika Kuroshima & Kazuo Fujita

Scientific Reports **9**, Article number: 13411 (2019) | [Download Citation](#)

320 Accesses | **8** Altmetric | [Metrics](#)

Abstract

Perceiving motion is a fundamental ability for animals. Primates integrate local 1D motion across orientation and space to compute a rigid 2D

Data Availability

The data reported in this paper have been deposited in Kyoto University Research Information Repository (<http://hdl.handle.net/2433/242241>).



京都大学学術情報リポジトリ
KURENAI 紅
Kyoto University Research Information Repository



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

Kyoto University Research Information Repository / 010 文学研究科・文学部 / 研究データ

このアイテムのアクセス数: 6

このアイテムの引用には次の識別子を使用してください: <http://hdl.handle.net/2433/242241>

このアイテムのファイル:

ファイル	記述	サイズ	フォーマット	
Exp1_pecking_data.csv		10.48 MB	CSV	見る/開く
MD5 : 8d808e7c4331d4f8676e859f23485665				
Exp1_trial_data.csv		1.63 MB	CSV	見る/開く
MD5 : 98ff171ef2cf3e7506ee0255122fba27				
Exp2_pecking_data.csv		10.38 MB	CSV	見る/開く
MD5 : c42df28e18d52a3c7122439c01cc3e33				
Exp2_trial_data.csv		2.07 MB	CSV	見る/開く
MD5 : b63bb20a3b6bf5600b8e99dce4484a5				
note.txt		5.04 kB	Text	見る/開く
MD5 : 89045be85792973ce283d95a3c8d1c7e				



エビデンスデータ（DOI登録例）

- Pre-seismic ionospheric anomalies detected before the 2016 Taiwan earthquake
 - 誌名：Journal of Geophysical Research -Space Physics
 - 著者：Umeno, Ken(ほか)
 - <https://doi.org/10.14989/244036>
 - URI：<http://hdl.handle.net/2433/244036>
 - データ：44.1 MB（ZIP）[141個のdatファイル]ほか計36のZIPファイル
 - README.txt 3.66 kB (Text)

RDMの理解促進するための情報提供

- ・ 研究データ公開支援Webサイト開設 （2018年度）に加え、
- ・ リーフレット作成「これからのリサーチデータマネジメント（RDM）」 （2019年度）

※本日の配布資料

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/researchdata/1380691>

データポリシー案 契機

- 当初は図書館でオープンデータを公開するに際して、研究データの取り扱いに関するガイドライン案を作成し、大学へ提案する予定であった（大学のポリシー制定までの当面の措置）
- また、工学研究科オープンデータ検討WGで、大学としてのポリシーがないと部局での検討が進めにくいといった意見が出されたことも契機になった
- 大学として研究データマネジメントに取り組む時期が来た（待ったなしの状況）

策定準備

1. 海外リサーチデータポリシーWG（2019年6～7月）

- ・メンバー：若手図書系職員を中心に構成 計7名
- ・内容：海外の主要大学のポリシーを翻訳

2. リサーチデータ勉強会（MLA勉強会）（2019年7～9月）

主催：附属図書館研究開発室（北村准教授の尽力で発足）

- ・メンバー：総合博物館・大学文書館の教員（アーキビスト）、附属図書館研究開発室教員、図書系職員 計7名
- ・内容：資料管理へのアプローチや手法などに関するMLA関係者の意見交換を通して、京都大学における研究データ管理に必要なポリシー、インフラ、手法について検討する

→リサーチデータポリシー原案（たたき台）の策定

大学としてのリサーチデータマネジメント、ポリシー策定へ向けて（準備中）

- 全学的な検討組織が発足予定
- WGメンバー案：図書館、情報環境機構、研究推進部、学術支援室
- アカデミックデータ・イノベーションユニット教職員からも随時意見聴取
- 委員会＞部会＞WG
- 部会：研究データの保存・管理・利活用について協議
- WG：リサーチデータポリシーの原案策定

⑤大学組織 による検討 (2019年度後半)

研究担当理事、図書館担当理事、
部局長（数名）、情報環境機構
長、図書館機構長、総務部長、
企画・情報部長、附属図書館事
務部長、その他若干名

委員会

事務局：企画・情報部

2019.12 部会設置予定

RDM専門部会

事務局：附属図書館

図書館機構長、葛ユニット長、
図書館機構・附属図書館教員、
情報環境機構教員、研究推進部
職員、附属図書館職員、その他

今後設置予定

リサーチデータポリ
シー策定WG

事務局：附属図書館

参考 国研データポリシーガイドライン

- (1) 機関におけるポリシー策定の目的について
- (2) 管理する研究データの定義、制限事項について
- (3) 研究データの保存・管理・運用・セキュリティについて
- (4) 研究データに対するメタデータ、識別子の付与、フォーマットについて
- (5) 研究データの帰属、知的財産の取り扱いについて
- (6) 研究データの公開、非公開及び猶予期間並びに引用について

国立研究開発法人におけるデータポリシー策定について（内閣府）

<http://www8.cao.go.jp/cstp/stsonota/datapolicy/datapolicy.html>

今後の課題 1

- 学内ポリシー検討を進める
- 学内の研究データの把握（葛ユニットの活動）
- 学内へのRDM理解促進（教員、特に若手研究者）
- RDM支援体制の検討
- 社会連携

今後の課題 2

- ・ エビデンスデータ以外の研究データの取り扱い
- ・ 紙資料の研究データ・研究資源の取り扱い
- ・ 関連機関との連携とすみわけ

(リポジトリ)

- ・ 巨大なファイルサイズのデータの取り扱い
- ・ ストレージ
- ・ ライセンス
- ・ データリポジトリの検討継続、国際認証

継続課題：学内研究データの把握

(アカデミックデータ・イノベーションユニットが調査)

2018年度

- ・ 第1回京都大学研究データマネジメントワークショップ
 - ・ 日時 : 2018年10月6日(土) 10:00-17:00 <http://hdl.handle.net/2433/243899>
 - ・ 研究データマネジメント成熟度モデルによる検証
- ・ 第2回京都大学研究データマネジメントワークショップ
 - ・ 日時 : 2019年2月28日(木) 10:20-17:00
<http://hdl.handle.net/2433/243900>
 - ・ 学内アンケートを行い、データマップ化 回答 241件 (1月25日現在)

※2019年度に、さらに第2回アンケートを実施 (AXIESと連携)

京都大学研究データマップ



(2019.02.28初版)
著者：家森俊彦他
出版：京都大学アカデ
ミックデータ・イノベー
ションユニット

<http://hdl.handle.net/2433/243958>

5. オープンサイエンスに 寄与する様々な取り組み

研究データ以外のオープンサイエンスへの取り組みについて紹介
豊かなサイエンスの世界を作るために図書館ができること

デジタルアーカイブ

- 京都大学では、貴重書デジタルアーカイブを構築
- IIFコンソーシアムに参加し、国際的な展開を図る
- デジタルヒューマニティーズの進展にも寄与
- メタデータの国際化にも降り組む

<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/>



オープン・サイテーション

- 論文等の学術出版物に記載された引用データ（参考文献リスト）をオープンアクセス化するもの
- 各論文の引用データ（参考文献リスト）を機械可読形式で公開することで、論文の信頼性の検証を可能にするための取組
- 人文社会系紀要等の学術情報流通にプラスになる
- 国際的には「I40C」が推進
- 詳細は下記参照
 - 京都大学図書館機構講演会 <http://hdl.handle.net/2433/241559>
 - 図書館総合展ポスター発表 <http://hdl.handle.net/2433/244879>

データベースレスキュー

- 京都大学メンバーでは、主に学術支援室の天野URAが提言し活動を促している。アカデミックデータ・イノベーションユニットでも取り組む [※JPCOAR研究データタスクフォースの活動](#)
- 京都大学の図書館でも、貴重書デジタルアーカイブへ移行するような事例が出てきている